

## 校長挨拶

本年度、長良特別支援学校の校長に着任した井原 誠（いはら まこと）です。

この長良特別支援学校は県内唯一の病弱単独の特別支援学校であり、小学部から高等部まで46人の児童生徒が学んでいます。「元気な病弱教育」をスローガンに、一人一人の教育的ニーズを的確に把握しながら、個別具体的に応じた教育活動を行っています。また、病弱特別支援学校のコア・スクールとして、県内の特別支援学校や小中学校、高等学校等へ病弱教育の情報を発信し、外部支援を積極的に行っています。

私はこの長良特別支援学校には平成30年度から2年間小学部主事として勤務していました。コロナ禍以前で、校外で様々な体験活動を行ったり、近隣の学校と積極的に交流を行ったりしていました。校内でも運動会や金華祭などの学校行事だけでなく、昼休みなどに全校の児童生徒がかかわり合う姿が自然な情景として見られていました。

ところが令和2年3月、全国一斉に臨時休校となってから様相が一変しました。学校へ登校することも、教員が訪問教育をすることもできず、オンラインでかろうじてつながりをもちつつ学びを保障する日々が続きました。やっと登校、病院や家庭への訪問教育ができるようになってからも授業日数や時間を制約したり、対面で活動する集団を制限したりと児童生徒にとっても、教職員にとっても苦しい日々が続いたと聞いています。

ただ、そんな中でも、当校でこれまで培ってきたWeb 会議システムを用いた同時双方型の遠隔教育などICT活用のノウハウを生かしながら、児童生徒の学び、体験の保障を行ってきました。また、新型コロナウイルスが5類になってからは、感染症対策を確実に実施しながら、学部内での合同授業や、学部ごとでの集合形態による行事を実施するなど少しずつ対面で活動できる範囲を広げていきました。

令和7年度は引き続き感染防止対策を確実に実施しながら、コロナ禍で培ったICT活用の知見を踏まえ、児童生徒と保護者と教職員、そして地域が「つながる教育活動」を展開していきたいと考えています。

また、人工呼吸器を使用する児童生徒など重症化リスクのある児童生徒が多く在籍する当校の実態を考えると、医療機関と連携した児童生徒が安心して学べる体制の整備は必要不可欠となります。隣接する長良医療センターや岐阜県総合医療センター「すこやか」と連携し、安心・安全な学校生活を築きつつ、「つながる教育活動」を展開することが、「元気な病弱教育」を実現することになると考えています。

子どもたちを元気に、保護者も元気に、教職員も元気に、そして地域と一緒に元気になる。一人でも多くの方にこの長良特別支援学校を知っていただき、学校の応援団になっていただきたいと思います。

令和7年4月15日

校長 井原 誠